

公益財団法人 Save Earth Foundation

2019 年度事業計画書

1. 事業活動

1-1. 資源循環事業

当法人は、美しい地球を未来の子どもたちに残すため、廃棄物の再資源化の推進と資源循環の仕組みを開発し、持続可能な循環型社会の構築に貢献することを旨として本事業に取り組む。

循環型社会の構築においては、消費者・排出事業者・廃棄物処理事業者・生産者・行政といった全ての関係者が資源循環に対する意識を高め、それぞれの立場での役割を果たしていく必要がある。

本事業では、(1) 資源循環の重要性についての普及啓発活動、また(2) 廃棄物管理の適正化から再資源化に向けた支援、そして(3) それらの活動から得られる情報の分析調査研究による新たな資源循環の社会システムの開発や提案を通じ、循環型社会の構築に貢献する。

【2019年度の事業内容】

事業	課題・項目	活動内容
普及啓発	① 排出者対象 廃棄物適正管理支援セミナーの開催 (廃棄物・資源循環基調講演+SEF-Net販促)	・上期・下期各1回、無料で開催し新規見込客を獲得 ・電子マニフェストの運用効率化ツールとしてSEF-Netを訴求
	② ゼロエミッション研究会の運営	・愛知県名古屋市の外食事業者による共同食リループの構築、実績づくり ・再生利用事業計画の申請～認定までのノウハウ習得
	③ 一般に向けた啓発活動の実施	・家庭系廃棄物の発生抑制、消費者の意識向上のため啓発活動を行う
	④ 表彰、認定制度の検討	・廃棄物の適正管理、資源循環の促進に寄与する表彰・認定制度を検討する
公1 資源循環事業	SEF-Netユーザーの拡大	・JF正会員へのアプローチ強化 ・セグメント別のアプローチとKPI設定管理による営業活動の計画的実行
	① 1) 排出者のニーズに沿った提案+SEF-Net提案	・訪問によりニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを組み合わせ提案 (管理サポート、組成調査、処理状況確認、電子マニフェスト、計量システムなど)
	2) 食リループ構築企画への参加訴求+SEF-Net提案	・ゼロエミッション研究会参加事業所へのSEF-Net導入一拡大 ・リサイクルマッチング提案と合わせてSEF-Netを提案
	3) 管理会社への業務効率向上提案としてSEF-Net訴求	・自社システムを持たない管理会社への効率化提案 (対象: 理念を共有できる管理会社)
	② SEF-Netのシステム改善	・差別化を図るための定例ミーティングを実施
	③ サービスラインナップの充実 (賛助会員/SEF-Netユーザー向けサービス開発)	・組成調査～適正化サポートサービスの提供、排出量把握ノウハウ構築 ・提携パートナーとの連携による処理状況確認、計量システム導入支援
	① ① SEF-Netデータ分析手法の検討	・集積される廃棄物データの分析・活用方法を検討する
共通	① サポーター/指定寄附増加	・事業活動における訪問、営業の機会を活用して支援拡大を要請

1-2. 森林再生事業

日本は国土面積の約66%が森林に覆われた、世界有数の森林大国である。森林は生物多様性の保全や地球温暖化の防止など、様々な機能を通じて私たちに多くの恩恵をもたらしている。この豊かな森林を未来の子どもたちに残していくことは、現代を生きる私たちの大切な役割である。そこで、当法人は豊かな自然と森林資源を未来の子どもたちに残すために本事業に取り組む。

本事業では、(1) 民有林や公有林の管理を受託して、それぞれの地域や森林の特性に合わせた再生保全活動を実施、また(2) 再生保全活動の過程において発生する間伐材などの森林資源の利活用を促進、そして(3) 森林をフィールドとした環境教育の機会の提供を通じて、自然環境の保全に貢献する。

【2019年度の事業内容】

事業		課題・項目	活動内容
山武	再生保全	持続可能な資源利用と生物多様性に配慮した再生保全活動	・林分状況確認(内製)、自然環境調査(委託)を実施し、データを蓄積する ・毎月2回の整備活動(第2・第4土曜日)を実施
		① 日向の森	・定例活動の定着化を図る
		② 板川、埴谷の森	・企業向け体験の機会を活用し整備作業を進める
	資源利活用	① 間伐材、除伐材など林地残材の活用	・山武市が取組む「木の駅プロジェクト」への協力、間伐材搬出 →木質バイオマスとして利活用
		② 地域材の活用	・夢ボードの完成度向上→地域モデル構築
	環境教育	① 企業向け森林体験(研修・懇親)の機会提供	・企業研修プログラムの実施をサポートし、活動への理解を促す
③ 体験型森林環境イベントの開催、地域関連イベントへの協力		・森林への興味関心を高め、活動への理解を促す	
公2 森林再生事業 東御	再生保全	① 生物多様性に配慮した森づくり・減災[ECO-DRR]と水源涵養	・自然環境調査(定期調査継続・専門的調査継続)
		② 在来種保全と外来種制御	・特定外来植物(オオハングソウ)制御
		③ 活動基盤形成・連携調整(再生保全他全般)	・コーディネート(再生保全、資源利活用、環境教育全般)
	資源利活用	① 生き物や自然にまつわる慣習的な利用の継承	・樹木・山野草の慣習的な活用法(和ハーブの情報収集)
		② 『持続可能な森林経営』森林管理計画と連携した利活用(カラマツ)	・「持続可能な森林経営」(SGEO認証林)と連携する森林資源利活用 (東御市森林課との情報共有)
	環境教育	① 森林環境イベント・地域交流(幼児・親子)・森林ESD	・「市民の集い」実施 ・幼児・親子プログラム試行
		② 森林環境イベント・森の生物多様性・森林ESD	・森の生物多様性や森林機能への理解促進
		③ 受託プログラムの開発(中・高校生向け)	・受託プログラムの開発(中・高校生向け/SDGs・森の生物多様性) ・プログラム評価方法の開発
	受託	① 中・高校生向け森林体験学習プログラムの実施サポート	・SDGsと森の生物多様性連動プログラム(コーディネート・レクチャー)
	その他地域	・ 丹波ウヰヰの森 森林再生活動支援	・ 現地ボランティア主導のもと、自治会合同/単独での活動を実施 ・ 企業の労働組合によるイベント開催を支援
・ 臼杵の森 森林再生活動支援		・ 植栽地管理、活動準備を委託実施する ・ 上期、下期各1回 ボランティア活動を実施	
・ 夢ボードの地域展開		・ 展開地域拡大のための提案と現地調整(鹿児島、大阪、陸前高田、他)	
・ 活動地域の拡大		・ 情報収集と調査状況を期ごとに言い整理する	
共通	・ サポーター/指定寄附増加に向けた対策	・ 事業活動における訪問、営業の機会を活用して支援拡大を要請	

2. その他

2-1. 会員募集

食品スーパー、食品卸売業、食品メーカー、外食産業といった食品関連事業者を主な対象とした会員募集を行うほか、食品廃棄物再資源化事業や収集運搬事業などを主とする廃棄物処理関連事業者、さらには食品リサイクルループに

関わる機器メーカーなどに対し、当法人の趣旨に賛同していただける賛助会員として積極的に募集を行っていく。

具体的には企業訪問を積極的に行うが、訪問時には単なる会員勧誘だけではなく、企業のニーズを察知し、資源循環事業および森林再生事業における訴求ポイントを明確化し、ニーズに合った支援のきっかけになるような提案を行っていく。また、会費を特定の事業に用途を限定した寄附として扱う「サポーター」や事業指定寄附の獲得にも引き続き注力していく。

2-2. 広報活動

当法人の認知度を更に高め、資源循環や森林再生に対する意識を啓発するため、また支援者や参画者をより多く募るため、活動を更に広くPRしていく。

ホームページ、パンフレットの充実やニュースレターの毎月発行、理事長が代表理事を務める他の社会貢献団体との合同による活動報告会の開催ほか、有益な情報発信の増強に取り組みたい。

2-3. 事業の推進体制

理事会または定例報告会を毎月開催することとし、迅速な意思決定と円滑な業務の遂行を図り、鋭意、事業推進を図っていく。

【2019年度の事業内容】

事業	課題・項目	活動内容
共通	① 支援の拡大に向けた企業訪問(賛助会員・寄附の獲得)	事業活動における訪問、営業の機会を活用して支援拡大を要請 ・既存深耕(パートナーシップの機会を増やす+資源適正化支援サービス) ・新規開拓(入会、参加、寄附、業務支援、助言など)
	② 告知・広報活動	・ニュースレターの内容充実 ・ホームページ・フェイスブックの活用(内容充実と随時更新)
運営管理	・ 評議員会	・ 上期1回、下期1回を予定 (他、決議事項がある場合は随時開催)
	・ 理事会	・ 5月、6月、1月、2月は理事会として開催
	・ 定例会	・ 平常月は定例会として開催 (決議事項がある場合は、理事会として開催)

以上

2019年度 事業計画書

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

事業	課題・項目	活動内容	数値/状態目標	予算(千円)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
				収入	支出	収支差額																	
共通	① 支援の拡大に向けた企業訪問(賛助会員・寄附の獲得)	事業活動における訪問、営業の機会を活用して支援拡大を要請 ・既存深耕(パートナーシップの機会を増やす+資源適正化支援サービス) ・新規開拓(入会、参加、寄附、業務支援、助成など) ・ニュースレターの内容充実 ・ホームページ・フェイスブックの活用(内容充実と随時更新)	訪問件数: 20社以上/月 ・年度末賛助会員数80社(+23社) ・サポーター数2,319名(+219名) ・年度末ニュースレター発行先500名(+170名) ・HP延べ来訪者数7,200名(+1,200名) ・FBいいね250(+100)	6,980	170	6,810	既存深耕 会員企業のフォローアップ → 新規開拓 事業活動での訪問時に訴求 ← 既存深耕 会員企業のフォローアップ																
	② 告知・広報活動	・上期・下期各1回、無料で開催し新規見込客を獲得 ・電子マニフェストの運用効率化ツールとしてSEF-Netを訴求 ・愛知県名古屋市の外食事業者による共同食リループの構築、実績づくり ・再生利用事業計画の申請～認定までのノウハウ習得	・参加者: 30名/回 ・見込率: 25% (15社) ・成約率: 70% (10社) ・9月までに再生利用事業計画認定 ・SDGsアワード、もったいない大賞ほか表彰へのエントリー	0	35	△ 35	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒					
公1 資源循環事業	① 排出者対象 廃棄物適正管理支援セミナーの開催(廃棄物・資源循環基調講演+SEF-Net版)	・上期・下期各1回、無料で開催し新規見込客を獲得 ・電子マニフェストの運用効率化ツールとしてSEF-Netを訴求	・参加者: 30名/回 ・見込率: 25% (15社) ・成約率: 70% (10社)	0	28	△ 28	告知・集客開始	⇒	⇒	⇒	8月21日	告知・集客開始	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	2月19日					
	② ゼロエミッション研究会の運営	・愛知県名古屋市の外食事業者による共同食リループの構築、実績づくり ・再生利用事業計画の申請～認定までのノウハウ習得	・9月までに再生利用事業計画認定 ・SDGsアワード、もったいない大賞ほか表彰へのエントリー	151	461	△ 310	4/17 第1回勉強会	⇒	6/12 見学会	7/17 第2回勉強会	⇒	10/24 成果発表会	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒					
	③ SEF-Netユーザーの拡大	・JF正会員へのアプローチ強化 ・セグメント別のアプローチとKPI設定管理による営業活動の計画的実行	・年度末サイト数7,000(前年比+3,000)	4,000サイト	4,000サイト	4,000サイト	4,220サイト	4,220サイト	4,220サイト	4,220サイト	4,220サイト	5,350サイト	5,350サイト	5,350サイト	5,350サイト	6,500サイト	6,500サイト	7,000サイト					
	④ 1) 排出者のニーズに沿った提案+SEF-Net提案	・訪問によりニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを組み合わせ提案(管理サポート、組成状況確認、電子マニフェスト、計量システムなど)	・見込客数: 152社 ・成約件数: 26社 ・平均サイト数: 39	46,401	33,908	12,493	企業訪問 新規15/継続5	⇒	企業訪問 新規15/継続5	⇒	企業訪問 新規15/継続5	⇒	企業訪問 新規15/継続5	⇒	企業訪問 新規15/継続5	⇒	企業訪問 新規15/継続5	⇒	企業訪問 新規15/継続5				
	④ 2) 食リループ構築企画への参加訴求+SEF-Net提案	・ゼロエミッション研究会参加事業所へのSEF-Net導入一歩拡大 ・リサイクルマッチング提案と合わせてSEF-Netを提案	・見込客数: 20社 ・成約件数: 10社 ・平均サイト数: 20	0	0	0	ゼロエミ研	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒				
④ 3) 管理会社への業務効率向上提案としてSEF-Net訴求	・自社システムを持たない管理会社への効率化提案(対象: 理念を共有できる管理会社)	・見込客数: 4社 ・成約件数: 2社 ・平均サイト数: 900	0	0	0	企業訪問 新規2社	⇒	企業訪問 新規2社	⇒	企業訪問 継続4社	⇒	1社成約	⇒	企業訪問 継続3社	⇒	1社成約	⇒	企業訪問 継続2社					
⑤ SEF-Netのシステム改善	・差別化を図るための定例ミーティングを実施	・毎月1回実施	0	24	△ 24	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒					
⑥ サービスラインナップの充実(賛助会員/SEF-Netユーザー向けサービス開発)	・組成調査～適正化サポートサービスの提供、排出量把握ノウハウ構築 ・提携パートナーとの連携による処理状況確認、計量システム導入支援	・SEF-Netと連動	2,616	1,221	1,395	組成調査～適正化サポートサービス提供/ノウハウ構築(ワタミ)/新規提案 処理状況確認/計量システム 新規提案																	
⑦ SEF-Netデータ分析手法の検討	・累積される廃棄物データの分析・活用方法を検討する	・月1回の検討を継続	0	0	0	システム改善ミーティング内で検討																	
⑧ サポーター/指定寄附増加	・事業活動における訪問、営業の機会を活用して支援拡大を要請	・個人サポーター: +50名(200→250名) ・法人サポーター: 賛助会員を含む	565	2,513	△ 1,948																		
資源循環事業 計				49,733	38,155	11,578																	
山武 資源活用	① 持続可能な資源利用と生物多様性に配慮した再生保全活動	・林分状況確認(内製)、自然環境調査(委託)を実施し、データを蓄積する ・毎月2回の整備活動(第2・第4土曜日)を実施	・委託調査2回実施、報告書取り纏め ・活動実施回数22回、参加者数6名以上/回	1,000	1,685	△ 685	委託調査 4/27 2回		林分毎の状況確認 2回		-		-		委託調査 9/23 2回		林分毎の状況確認 1回		-				
	② 1) 日向の森	・定例活動の定着化を図る	・計画通り実施	-	-	-	植栽地下刈 イベント準備	⇒	植栽地下刈	⇒	植栽地下刈	⇒	散策路下刈	⇒	植栽地下刈	⇒	散策路下刈 イベント準備	⇒	徐間伐・枝打	⇒	徐間伐・枝打		
	② 2) 板川、埴谷の森	・企業向け体験の機会を活用し整備作業を進める	・計画通り実施	-	-	-	-	⇒	林内道の下草刈 (板川)	⇒	植栽地下刈 (埴谷)	⇒	林内道の下草刈 (板川)	⇒	植栽地下刈 (埴谷)	⇒	林内道の下草刈 (板川)	⇒	除伐・林内整理 (埴谷)	⇒	除伐・林内整理 (板川)		
	③ 間伐材、除伐材など林地残材の活用	・山武市が取組む「木の駅プロジェクト」への協力、間伐材搬出 ・木質バイオマスとして利活用	・出荷数8トン以上	24	0	24	-	⇒	-	⇒	-	⇒	-	⇒	-	⇒	出荷(2トン)	⇒	出荷(2トン)	⇒	出荷(2トン)		
	④ 地域材の活用	・夢ボードの完成度向上→地域モデル構築	・都文館高1生対象400台製作、販売×2期	8,720	8,650	70	試作・調整	⇒	製作	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	製作	⇒	⇒	⇒	⇒		
⑤ 企業向け森林体験(研修・懇親)の機会提供	・企業研修プログラムの実施をサポートし、活動への理解を促す	・12回実施	666	1,595	△ 929	ワタミ様受入 (新卒・中途)	⇒	ワタミ様受入 (中途)	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	10/19 ユニーク	⇒	⇒	⇒	⇒			
⑥ 体験型森林環境イベントの開催、地域関連イベントへの協力	・森林への興味関心を高め、活動への理解を促す	・計画通り実施	-	-	-	-	⇒	5/4 前づくり 5/11 植樹祭	⇒	-	⇒	-	⇒	9/23 親子イベント	⇒	-	⇒	11/3 前づくり 11/23 産業まつり	⇒	-	⇒	3/20 親子イベント	
公2 森林再生事業	① 生物多様性に配慮した森づくり・減災[ECO-DRR]と水源涵養	・自然環境調査(定期調査継続・専門的調査継続)	・調査5回実施、報告書取り纏め	-	-	-	調査(委託)	⇒	調査(委託)	⇒	調査(委託)	⇒	調査(大学)	⇒	調査(委託)	⇒	調査(委託)	⇒	調査(委託)	⇒	報告書作成		
	② 在来種保全と外来種制御	・特定外来植物(オオハコギリ)制御	・計画通り実施	500	610	△ 110	確認巡回	⇒	作業	⇒	調査(委託)	⇒	作業	⇒	確認巡回	⇒	作業	⇒	確認巡回	⇒	作業		
	③ 活動基盤形成・連携調整(再生保全他全般)	・コーディネート(再生保全、資源利活用、環境教育全般)	・計画通り実施	-	-	-	調整 ※1報告・計画	⇒	調整 ※2申請作業	⇒	調整	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	調整 ※2申請作業	⇒	調整 ※1報告・計画	⇒	調整 ※2申請作業		
	④ 生き物や自然にまつわる慣習的な利用の継承	・樹木・山野草の慣習的な活用法(和ハーブの情報収集)	・計画通り実施	-	-	-	情報収集	⇒	調査(委託)	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
	⑤ 『持続可能な森林経営』森林管理計画と連携した利活用(カマツ)	・『持続可能な森林経営』(SGEO認証林)と連携する森林資源利活用 (東御市農林課との情報共有)	・計画通り実施	0	0	0	情報共有	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	
東御 環境教育	① 森林環境イベント・地域交流(幼児・親子)・森林ESD	・『市民の集い』実施 ・幼児・親子プログラム試行	・計画通り実施	-	-	-	全体調整	⇒	市民の集い 準備	⇒	調整	⇒	調整	⇒	調整	⇒	調整	⇒	調整	⇒	調整		
	② 森林環境イベント・森の生物多様性・森林ESD	・森の生物多様性や森林機能への理解促進	・3回実施	0	703	△ 703	調整	⇒	開催(現地) ☆	⇒	調整	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	開催(現地) ☆	⇒	調整 作業	⇒	調整		
	③ 受託プログラムの開発(中・高校生向け)	・受託プログラムの開発(中・高校生向け/SDGs・森の生物多様性) ・プログラム評価方法の開発	・計画通り実施	-	-	-	関係者調整	⇒	情報共有	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒		
④ 中・高校生向け森林体験学習プログラムの実施サポート	・SDGsと森の生物多様性運動プログラム(コーディネート・レクチャー)	・計画通り実施	1,030	1,018	12	関係者下見	⇒	実施準備	⇒	東御	⇒	東御	⇒	東御	⇒	東御	⇒	全体報告	⇒	提案準備			
その他 地域	・丹波ウツバタの森 森林再生活動支援	・現地ボランティア主導のもと、自治会合同/単独での活動を実施 ・企業との労働組合によるイベント開催を支援	・月1回の活動実施: 60名参加 ・年2回の活動支援: 60名参加	0	98	△ 98	-	⇒	活動日設定 (自治会調整)	⇒	現地活動	⇒	イベント支援	⇒	現地活動	⇒	現地活動	⇒	現地活動	⇒	現地活動		
	・臼杵の森 森林再生活動支援	・植栽地管理、活動準備を委託実施する ・上期、下期各1回 ボランティア活動を実施	・植栽地の保全、活動準備 ・年2回の活動実施: 60名参加	0	672	△ 672	-	⇒	-	⇒	施業委託 (活動準備)	⇒	活動(竹林整備)	⇒	-	⇒	-	⇒	-	⇒	施業委託 (植栽地整備)		
	・夢ボードの地域展開	・展開地域拡大のための提案と現地調整(鹿児島、大阪、陸前高田、他)	・新たな展開地域を1地域拡大	0	240	△ 240	可能性調査																
	・活動地域の拡大	・情報収集と調査状況を期ごとに行い整理する	・管理面積の拡大: 16ha	0	240	△ 240	(1期) 情報収集→調査→報告 → (2期) 情報収集→調査→報告 → (3期) 情報収集→調査→報告 → (4期) 情報収集→調査→報告																
⑤ サポーター/指定寄附増加に向けた対策	・事業活動における訪問、営業の機会を活用して支援拡大を要請	・個人サポーター: +160名(2,000→2,160名) ・法人サポーター: 賛助会員を含む	7,936	801	7,135																		
森林再生事業 計				19,876	16,312	3,564																	
事業収支 計				76,589	54,672	21,917																	
配賦前管理費 計				0	21,077	△ 21,077																	
総 計				76,589	75,749	840	収支差額は指定正味財産増額分(収支相償)																
事業	課題・項目	活動内容	数値/状態目標	予算(千円)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
				収入	支出	収支差額																	
運営 管理	・ 評議員会	・ 上期1回、下期1回を予定 (他、決議事項がある場合は随時開催)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	・ 理事会	・ 5月、6月、1月、2月は理事会として開催	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	・ 定例会	・ 平常月は定例会として開催 (決議事項がある場合は、理事会として開催)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					

東御の森注記: ☆「幼児・親子プログラム」として、一つの流れをつくる計画(主対象は幼児・親子だが、一般(シニア・ハンディがある人など)も参加可能: Forest for All) ※1東御市へ提出する活動報告書/計画書作成 ※2助成金申請→3月: 緑と水の森林ファンド(幼児・親子/森林ESD) 5月: 子ども夢基金(幼児・親子/森あそび) 12月: 地球環境基金(特定外来植物/在来種)